

日本共産党

村口英子議員

可燃物焼却施設建設計画 資料を公開し、開かれた議論を！



質問する村口英子議員

村口英子議員は、鳥取市河原町国英地区に県東部広域行政管理組合が建設を計画しているごみ焼却施設について、日本環境衛生センター西日本支局に委託して集約化と分散化の2パターンを比較検討したものを、国英地区住民に説明していることを指摘。集約化は国英地区一カ所、分散化は国英地区、国府町岡益地区、気高町八束水地区の三カ所の2パターンで検討しています。

村口議員は、可燃ごみ（二七・一%減少）、プラスチックごみ（八・九%減少）とも前年比で減少しているため、「可燃ごみは日量二〇〇ト程度で計画（日量三三〇ト）は大きすぎる。資料を公開し、市民に開かれた議論をすべきではないか」とたずねました。

竹内功市長は「貴重な意見だ。圏域のみなさんにもお知らせして候補地選定の理解を得たい」と答弁しました。



解放同盟補助金の不正受給問題

記者会見の説明に対する

教育長の認識をただす

さらに村口議員は、同和对策の補助金問題について質問しました。

「解同」（部落解放同盟）鳥取市協議会は、八月二十九日に記者会見を開き、元会計責任者が架空

の人権コンサートを仕立てて、二〇〇五年度の市教委の補助金五〇

万円を不正受給していたことを認め、役員十七人が二十九日に総辞職したことを発表しました。

村口議員は、同会の山田幸夫議長が五〇万円について一年以上も公表が遅れた理由として、市教委との返還交渉が半年以上かかったと説明している点に対する教育長の認識をただしました。

中川教育長は「平成十八年秋の段階では書記長と会計責任者は返還したいと言っておられたが、山田議長が反対されて、会の意思統一ができていないことがあった。平成十九年三月十九日に、山田議長が五〇万円を返還した

いと言っておられたが、何が事実か全くわからない時点で返還してもらおうわけにはいかない

ので、お断りした。その四日後には五〇万円を持ってこられたが、同じ理由で取れないと、断った。八月にも議長など五名が来られ、話の中で返還したいという発言が

あったが、もう既に告発したあとでした。だから、私どもの印象は返還のための交渉を続けていたという認識はもっていない」と答えました。

来年度予算への 要望書を提出

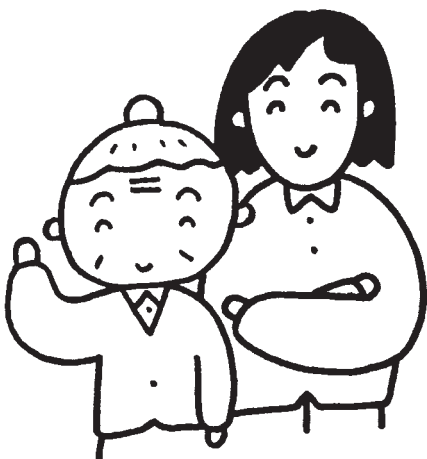
日本共産党鳥取市議団は、10月14日鳥取市長に対し、2009年度予算編成に対する要望書を提出しました。

要望の大きな柱は、市民の暮らし・福祉の充実、市立病院の医師対策、教育の充実と施設の改善、雇用の確保、農業の振興など、具体的な要望は約70項目です。

議員団のホームページに掲載しています。



深沢副市長に申し入れする議員団（10月14日）



日本共産党

市議団だより 10・11月号

伊藤いく子議員 ☎21-5759 角谷敏男議員 ☎26-3012 村口英子議員 ☎59-0536
☎680-0843 鳥取市南吉方3-302-2 ☎0857-23-6674
(日本共産党 東・中部地区委員会) FAX 0857-24-4491

ホームページ：
日本共産党鳥取市議団
<http://www.jcp-torishigidan.net/>
ブログ・角谷敏男議員（角さんの飛脚便）
<http://www.kakutani-toshio.net/>
伊藤いく子議員（鳥取で子育てまっしぐら）
<http://www.itou-ikuko.net/>

雇用促進住宅廃止問題 市は聞き取り調査と相談窓口の設置を！

質問に立つ
伊藤いく子議員



伊藤いく子議員は質問に先立ち、二〇一一年までに国が廃止する方針の雇用促進住宅滝山宿舎（一六〇室）を訪れ、入居者と懇談した

ことを報告。情報が錯綜し、入居者が不安をいだいており、すでに半分が空室であることを指摘しました。そのうえで、市として聞き取り調査をし、相談窓口を開設することなど求めました。竹内功市長は「雇用・能力開発機構に、入居者に対して責任をもって対応するように要請したい。実態把握は説明会の開催状況を見て判断する。市の窓口で相談を受けたい。買い取りは無理」と答弁しました。

漁船への直接支援を拒否

また、燃油高騰問題では、「国を動かすために市の姿勢として一リットル1円（総額三三〇万円）の漁船燃油代直接助成を」と求め

ました。竹内市長は、市場までの輸送費、船底付着物除去に六〇〇万円の助成をするので、それ以上は考えていないと答えました。



福祉灯油、医師確保、ポートピア（場外舟券売り場）設置計画 市民生活と地域医療を守るまちづくりを！



質問する角谷敏男議員

ギャンブル施設で まちづくりをするな

市当局は「布袋地区は、地元、事業者からその後、話はない。南限は、八月二十五日に事業者と尼崎市の関係者が来て、建設計画の説明を受けた」と答弁。角谷議員は「まちづくり

に、このような（射幸心をあおる）施設はふさわしくない」と強く指摘しました。角谷議員はさらに、福祉灯油の助成（燃油代補助）を生活保護世帯から介護保険の減免世帯などに広げる

ように提案しました。木下公弘福祉保健部長は「今年度は、決定していないが、仮に実施するならば、対応を検討したい」と答えました。

九月議会で、角谷敏男議員は、ポートピア（場外舟券売り場）設置計画、福祉灯油、医師確保について一般質問しました。ポートピア設置計画は、市内の河原町布袋と南限の二カ所に建設計画が持ち上がっています。南限は、五月末に協定の締結をしたといわれま

河原（布袋）と 南限のポートピア

市立病院 小児科休診 医師確保対策を

また、市立病院の小児科が十月から休止する問題では、角谷議員が「いま小児科とともに内科医も不足している。四年前は十三人、現在は六人しかいない。慢性疾患患者などへの専門的治療と救急医療での役割発揮、病院経営への貢献のうえで、内科の医師確保も優先課題と考えるが、どう対処するのか」とた

だしました。清水健治病院長代行は、「内科医（不足）も全国で問題となっている。平成十

六年の新医師臨床研修制度の開始以来、大学自体に医師不足が深刻になった」と、実態を説明。そして「医師確保は、岡山大学と鳥取大学に再三要望している。今後も一人でも確保に努力したい」と答えました。

